

あきる野市版レッドリスト（鳥類）

R2. 10. 1

| 1

和名	科名	学名	渡り区分
絶滅危惧 I A 類（CR）			
ヨシガモ	カモ科	<i>Anas falcata</i>	冬鳥
ヤマシギ	シギ科	<i>Scolopax rusticola</i>	冬鳥
コアジサシ	カモメ科	<i>Sterna albifrons</i>	夏鳥
サシバ	タカ科	<i>Butastur indicus</i>	夏鳥
クマタカ	タカ科	<i>Nisaetus nipalensis</i>	留鳥
コノハズク	フクロウ科	<i>Otus sunia</i>	夏鳥
アカショウビン	カワセミ科	<i>Halcyon coromanda</i>	夏鳥
ヤマセミ	カワセミ科	<i>Megaceryle lugubris</i>	留鳥
ブッポウソウ	ブッポウソウ科	<i>Eurystomus orientalis</i>	旅鳥
サンショウクイ	サンショウクイ科	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	夏鳥
エゾムシクイ	ムシクイ科	<i>Phylloscopus borealoides</i>	旅鳥
コルリ	ヒタキ科	<i>Luscinia cyane</i>	夏鳥
ホオアカ	ホオジロ科	<i>Emberiza fucata</i>	旅鳥
絶滅危惧 I B 類（EN）			
オカヨシガモ	カモ科	<i>Anas strepera</i>	冬鳥
ミゾゴイ	サギ科	<i>Gorsachius goisagi</i>	夏鳥
ササゴイ	サギ科	<i>Butorides striata</i>	夏鳥
バン	クイナ科	<i>Gallinula chloropus</i>	留鳥
カッコウ	カッコウ科	<i>Cuculus canorus</i>	夏鳥
ヨタカ	ヨタカ科	<i>Caprimulgus indicus</i>	夏鳥
コチドリ	チドリ科	<i>Charadrius dubius</i>	夏鳥
タシギ	シギ科	<i>Gallinago gallinago</i>	冬鳥
ハチクマ	タカ科	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	夏鳥
オオタカ	タカ科	<i>Accipiter gentilis</i>	留鳥
オオコノハズク	フクロウ科	<i>Otus lempiji</i>	留鳥
アオバズク	フクロウ科	<i>Ninox scutulata</i>	夏鳥
ハヤブサ	ハヤブサ科	<i>Falco peregrinus</i>	留鳥
サンコウチョウ	カササギヒタキ科	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	夏鳥
ヒバリ	ヒバリ科	<i>Alauda arvensis</i>	夏鳥

和名	科名	学名	渡り区分
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)			
キジ	キジ科	<i>Phasianus colchicus</i>	留鳥
オシドリ	カモ科	<i>Aix galericulata</i>	—
ヒドリガモ	カモ科	<i>Anas penelope</i>	冬鳥
ハシビロガモ	カモ科	<i>Anas clypeata</i>	冬鳥
キンクロハジロ	カモ科	<i>Aythya fuligula</i>	冬鳥
ホオジロガモ	カモ科	<i>Bucephala clangula</i>	冬鳥
ミコアイサ	カモ科	<i>Mergellus albellus</i>	冬鳥
ジュウイチ	カッコウ科	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	夏鳥
ツツドリ	カッコウ科	<i>Cuculus optatus</i>	夏鳥
ミサゴ	ミサゴ科	<i>Pandion haliaetus</i>	旅鳥
ツミ	タカ科	<i>Accipiter gularis</i>	留鳥
フクロウ	フクロウ科	<i>Strix uralensis</i>	留鳥
チョウゲンボウ	ハヤブサ科	<i>Falco tinnunculus</i>	留鳥
ククイタダキ	ククイタダキ科	<i>Regulus regulus</i>	冬鳥
セッカ	セッカ科	<i>Cisticola juncidis</i>	夏鳥
アカハラ	ヒタキ科	<i>Turdus chrysolaus</i>	—
コマドリ	ヒタキ科	<i>Luscinia akahige</i>	旅鳥
ミヤマホオジロ	ホオジロ科	<i>Emberiza elegans</i>	冬鳥
オオジュリン	ホオジロ科	<i>Emberiza schoeniclus</i>	—
準絶滅危惧 (NT)			
オナガガモ	カモ科	<i>Anas acuta</i>	冬鳥
コガモ	カモ科	<i>Anas crecca</i>	冬鳥
ホシハジロ	カモ科	<i>Aythya ferina</i>	冬鳥
カイツブリ	カイツブリ科	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	留鳥
ゴイサギ	サギ科	<i>Nycticorax nycticorax</i>	旅鳥
コサギ	サギ科	<i>Egretta garzetta</i>	冬鳥
クイナ	クイナ科	<i>Rallus aquaticus</i>	冬鳥
オオバン	クイナ科	<i>Fulica atra</i>	冬鳥
ホトトギス	カッコウ科	<i>Cuculus poliocephalus</i>	夏鳥
イカルチドリ	チドリ科	<i>Charadrius placidus</i>	留鳥
クサシギ	シギ科	<i>Tringa ochropus</i>	旅鳥
キアシシギ	シギ科	<i>Heteroscelus brevipes</i>	旅鳥
イソシギ	シギ科	<i>Actitis hypoleucos</i>	—
ハイタカ	タカ科	<i>Accipiter nisus</i>	冬鳥
ノスリ	タカ科	<i>Buteo buteo</i>	留鳥

和名	科名	学名	渡り区分
アカゲラ	キツツキ科	<i>Dendrocopos major</i>	留鳥
センダイムシクイ	ムシクイ科	<i>Phylloscopus coronatus</i>	夏鳥
オオヨシキリ	ヨシキリ科	<i>Acrocephalus orientalis</i>	夏鳥
トラツグミ	ヒタキ科	<i>Zoothera dauma</i>	留鳥
コサメビタキ	ヒタキ科	<i>Muscicapa dauurica</i>	夏鳥
オオルリ	ヒタキ科	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	夏鳥
カヤクグリ	イワヒバリ科	<i>Prunella rubida</i>	冬鳥
タヒバリ	セキレイ科	<i>Anthus rubescens</i>	冬鳥
ベニマシコ	アトリ科	<i>Uragus sibiricus</i>	冬鳥
カシラダカ	ホオジロ科	<i>Emberiza rustica</i>	冬鳥
情報不足 (DD)			
ウズラ	キジ科	<i>Coturnix japonica</i>	漂鳥
ヒクイナ	クイナ科	<i>Porzana fusca</i>	夏鳥
ヒメアマツバメ	アマツバメ科	<i>Apus nipalensis</i>	旅鳥
タゲリ	チドリ科	<i>Vanellus vanellus</i>	旅鳥
ケリ	チドリ科	<i>Vanellus cinereus</i>	旅鳥
イヌワシ	タカ科	<i>Aquila chrysaetos</i>	旅鳥
コミミズク	フクロウ科	<i>Asio flammeus</i>	冬鳥
アリスイ	キツツキ科	<i>Jynx torquilla</i>	冬鳥
オオアカゲラ	キツツキ科	<i>Dendrocopos leucotos</i>	—
ヤイロチョウ	ヤイロチョウ科	<i>Pitta nympha</i>	夏鳥
リュウキュウサンショウクイ	サンショウクイ科	<i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>	冬鳥
コシアカツバメ	ツバメ科	<i>Hirundo daurica</i>	旅鳥
イソヒヨドリ	ヒタキ科	<i>Monticola solitarius</i>	冬鳥
サメビタキ	ヒタキ科	<i>Muscicapa sibirica</i>	—
オオマシコ	アトリ科	<i>Carpodacus roseus</i>	冬鳥
イスカ	アトリ科	<i>Loxia curvirostra</i>	旅鳥
注目種 (*)			
ヤマドリ	キジ科	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	留鳥
ホオジロ	ホオジロ科	<i>Emberiza cioides</i>	留鳥

※ 原則として種までの分類としているが、生息状況等が異なり、区別する必要の高いものだけに限り、亜種を掲載した。リュウキュウサンショウクイは、サンショウクイの亜種である。

※ 渡り区分には、あきる野市における渡り区分を優先して記載し、不明の場合には、関東地方の渡り区分を記載した。関東地方の渡り区分も不明の場合には、「—」とした。

※ 移動性のある鳥のうち、通過の過程で市内にごく一時的にしか滞在しないものは、市内に生息していない種（非分布）と捉え、評価の対象としていない。

選定方法

1 検討の体制

市と市民等との協働組織であり、あきる野市の生物多様性の保全について検討を行う「あきる野市生きものの会議」による議論を経て、市長が選定した。

| 4

2 専門部会の設置

上記の会議の下部組織として、「鳥類部会」を設置し、種の選定及びランク付けの案を作成した。鳥類部会の委員構成は次のとおりである。

座長 森 弘安 あきる野市自然環境調査部会
委員 浦野守雄 あきる野市自然環境調査部会
パブロ・アパリシオ・フェルナンデス 森林レンジャーあきる野
御手洗望 青梅自然誌研究グループ

3 カテゴリー区分と基本概念

名称	表示	基本概念
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来に、野生での絶滅のおそれがとても高いもの。
絶滅危惧ⅠB類	EN	近い将来に、野生での絶滅のおそれが高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類	VU	絶滅のおそれが高まることを避けられないと考えられるもの。
準絶滅危惧	NT	今の時点での絶滅のおそれは小さいものの、個体数や生息する場所が急激に減ったときなどには、絶滅のおそれが一段と高まると考えられるもの。
情報不足	DD	生息地が限られていたり、特殊な環境に生息していたりするために、環境条件の変化によっては、すぐにでも絶滅のおそれが懸念されると思われるが、絶滅危惧種としてランク付けするほどには情報が得られていないもの。
注目種	*	今の時点で絶滅のおそれは低いものの、生息環境の減少や外来種による被害、生息環境の特殊性などを考慮して、注目すべきもの。

4 種の名称等

和名学名等の名称は、「日本鳥学会 日本鳥類目録改訂第7版(2012年9月15日)」に準じて記載した。

5 渡り区分と基本概念

名称	基本概念
留鳥	一年中見られる鳥。市内で繁殖し、越冬する。
漂鳥	例えば夏は山林、冬は里山など、季節によって違う場所で見られる鳥。外国には行かない。
夏鳥	春夏に見られる渡り鳥。春夏に市内で繁殖し、秋冬には、越冬するため暖かい外国へ行く。
冬鳥	秋冬に見られる渡り鳥。市内で越冬し、春夏には、繁殖するため涼しい外国へ行く。
旅鳥	春秋に一時的に見られる渡り鳥。繁殖のために涼しい外国へ行くときや、越冬するために暖かい外国へ行くときの旅の途中で、市内を通過する。

<写真の提供について>

この資料に掲載した写真は、次のとおりご提供いただいたものです。転載は禁止します。

なお、鳥類は、雌雄や季節により色や模様が異なる場合がありますが、1種につき1枚の写真に掲載しています。

- ・バン、コチドリ、ミコアイサ…「あきる野市自然環境調査報告書」より転載
- ・イツヒヨドリ…高橋英子氏
- ・ヨタカ…杉野二郎氏
- ・コアシサシ（撮影地：神奈川県）、オカヨシガモ、ミゾゴイ、ササゴイ、ハチクマ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ミサゴ、セッカ、ホシハジロ（撮影地：八王子市）、カイツブリ（撮影地：調布市）、ゴイサギ（撮影地：八王子市）、ホトトギス、イカルチドリ、キアシシギ（撮影地：八王子市）、イソシギ、ハイタカ、ノスリ、ウズラ（撮影地：日の出町）、ヒメアマツバメ、ケリ（撮影地：奈良県）、イヌワシ（都外）、コシアカツバメ…パブロ・アパリシオ・フェルナンデス氏（※撮影地の記載がないものは、市内にて撮影）
- ・ヨシガモ、ヤマシギ、サシバ、クマタカ、コノハズク、アカショウビン、ヤマセミ、ブッポウソウ、サンショウクイ、コルリ、ホオアカ、カッコウ、タシギ、オオタカ、オオコノハズク、アオバズク、ハヤブサ、サンコウチョウ、ヒバリ、キジ、オシドリ、ヒドリガモ、ツツドリ、ツミ、フクロウ、チョウゲンボウ、キクイタダキ、アカハラ、コマドリ、ミヤマホオジロ、オオジュリン、オナガガモ、コガモ、コサギ、クイナ、オオバン、クサシギ、アカゲラ、センダイムシクイ、オオヨシキリ、トラツグミ、コサメビタキ、オオルリ、カヤクグリ、タヒバリ、ベニマシコ、カシラダカ、タゲリ、コミミズク、オオアカゲラ、リュウキュウサンショウクイ、オオマシコ、イスカ、ヤマドリ、ホオジロ、エゾムシクイ（剥製）…浦野守雄氏

絶滅危惧 I A 類 (CR) 13 種

絶滅のおそれを高めている原因が、改善せず今のまま続いたとすると、ごく近いうちに、野生では絶滅するおそれがとても高いもの。



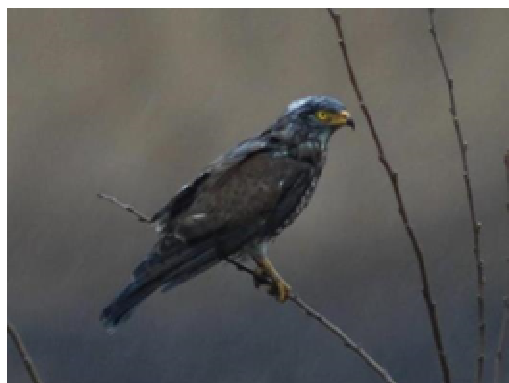
ヨシガモ



ヤマシギ



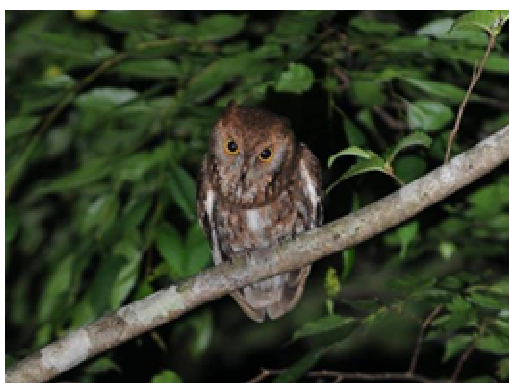
コアジサシ



サシバ



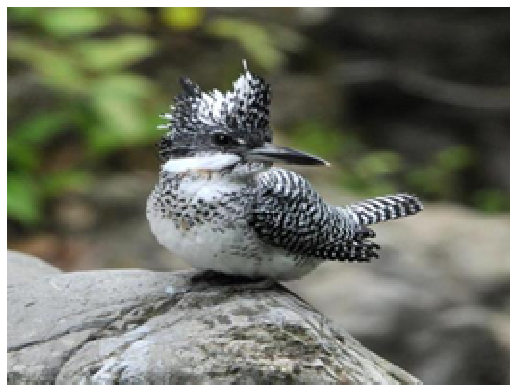
クマタカ



コノハズク



アカショウビン



ヤマセミ



ブッポウソウ



サンショウクイ



※剥製

エゾムシクイ



コルリ



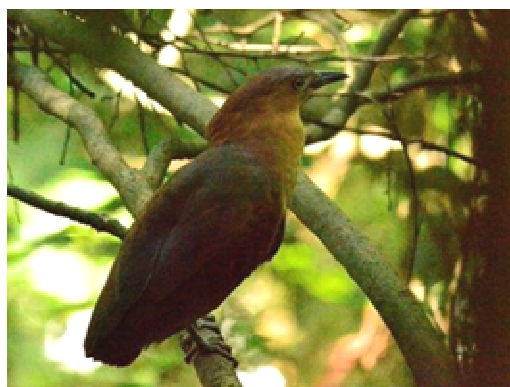
ホオアカ

絶滅危惧 I B 類 (EN) 15 種

絶滅のおそれを高めている原因が、改善せず今のまま続いたとすると、近いうちに、野生では絶滅するおそれが高いもの。



オカヨシガモ



ミゾゴイ



ササゴイ



バン



カッコウ



ヨタカ



コチドリ



タシギ



ハチクマ



オオタカ



オオコノハズク



アオバズク



ハヤブサ



サンコウチョウ



ヒバリ

絶滅危惧Ⅱ類（VU） 19種

絶滅のおそれを高めている原因が、改善せず今のまま続いたとすると、近いうちに、さらに絶滅のおそれが高まることを避けられないと考えられるもの。



キジ



オシドリ



ヒドリガモ



ハシビロガモ



キンクロハジロ



ホオジロガモ



ミコアイサ



写真なし

ジュウイチ



ツツドリ



ミサゴ



ツミ



フクロウ



チョウゲンボウ



キクイタダキ



セッカ



アカハラ



コマドリ



ミヤマホオジロ

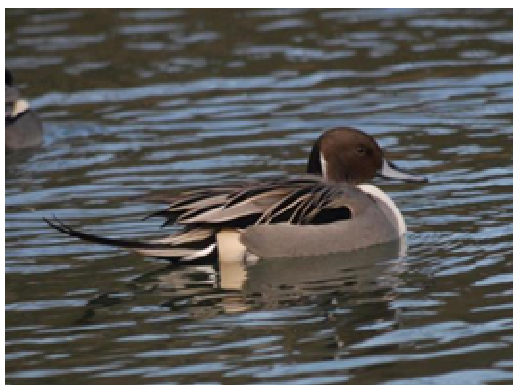


オオジュリン

準絶滅危惧（NT） 25種

今の時点での絶滅のおそれは小さいものの、個体数や生息する場所が急激に減ったときなどには、絶滅のおそれが一段と高まると考えられるもの。

| 14



オナガガモ



コガモ



ホシハジロ



カイツブリ



ゴイサギ



コサギ



クイナ



オオバン



ホトトギス



イカルチドリ



クサシギ



キアシシギ



イソシギ



ハイタカ



ノスリ



アカゲラ



センダイムシクイ



オオヨシキリ



トラツグミ



コサメビタキ



オオルリ



カヤクグリ



タヒバリ



ベニマシコ



カシラダカ

情報不足（DD） 16種

生息地が限られていたり、特殊な環境に生息していたりするために、環境条件の変化によっては、すぐにでも絶滅のおそれが懸念されると思われるが、絶滅危惧種としてランク付けするほどには情報が得られていないもの。

| 18



ウズラ



ヒクイナ



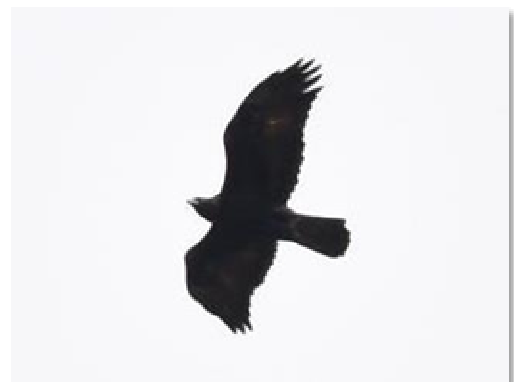
ヒメアマツバメ



タゲリ



ケリ



イヌワシ



コミミズク



アリスイ



オオアカゲラ



写真なし

ヤイロチョウ



リュウキュウサンショウクイ



コシアカツバメ



イツヒヨドリ



写真なし

サメビタキ



オオマシコ



イスカ

注目種（*） 2種

今の時点で絶滅のおそれは低いものの、生息環境の減少や外来種による被害、生息環境の特殊性などを考慮して、注目すべきもの。

| 21



ヤマドリ



ホオジロ